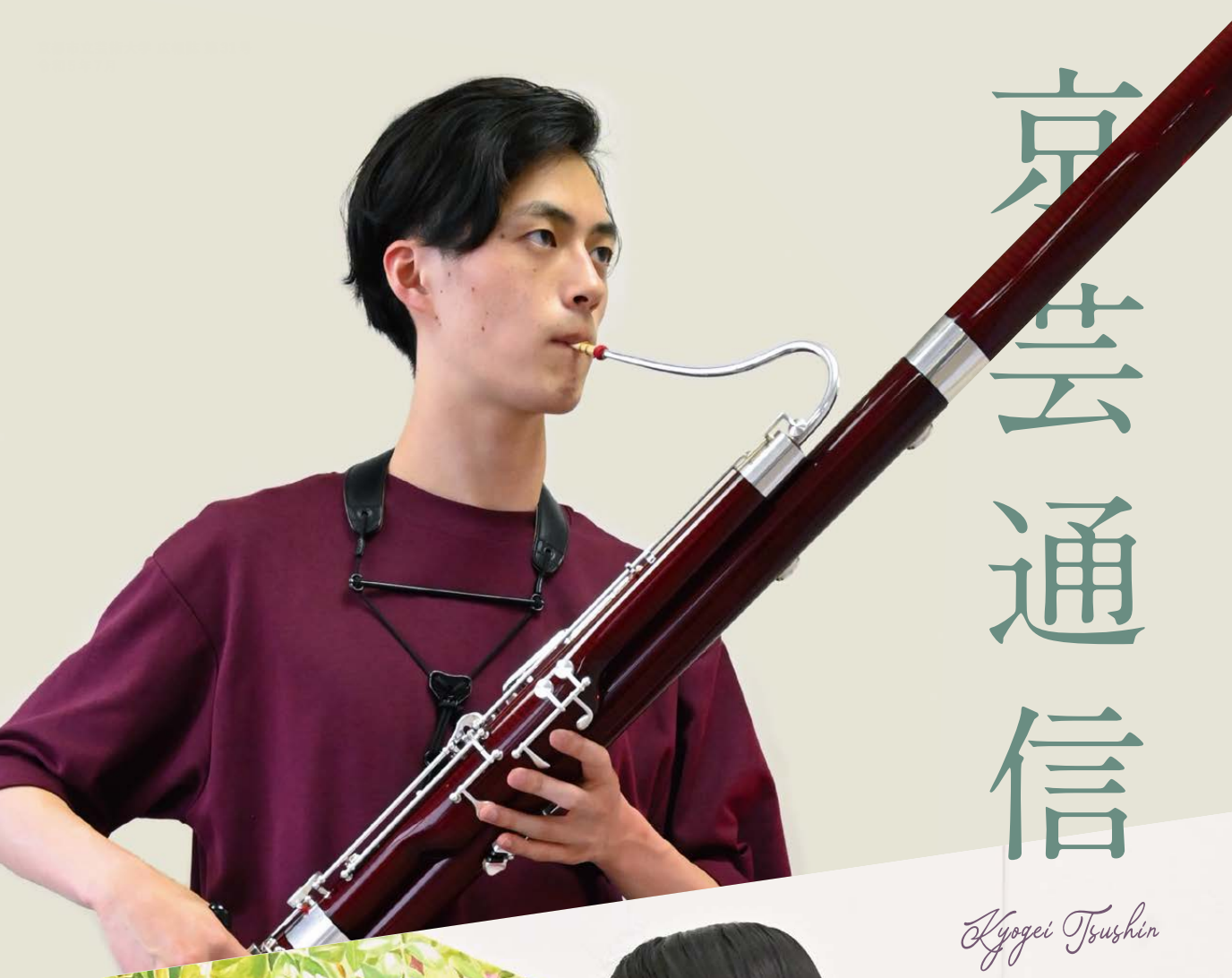


京芸通信

Kyogei Tsushin

vol. 31

教員コラム

阪 哲朗
指揮専攻 教授

NEW CAMPUS 2023
京都芸大は移転いたします

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

京芸トピックス

2023年上半期の京都芸大

京都芸大の最近の活動や、主なトピックスをご紹介。

あと100日!! カウントダウン企画がスタート

キャンパス移転100日前の6月23日、市民の皆さまに本学の移転をより身近に感じていただくため、JR京都駅に設置されたカウントダウンボードの意匠を更新したほか、京都ポルタ内のデジタルサイネージでカウントダウン企画を開始しました。

京都ポルタ内のデジタルサイネージ。新キャンパスの開講日となる10月1日まで毎日更新されます。

明るい響きに包まれて

四方恭子教授 退任記念コンサート

6月16日、2023年3月をもって本学を退任した四方恭子名誉教授の退任記念コンサートを開催しました。四方名誉教授によるJ.S.バッハの無伴奏パルティータ第3番や、本学教員らとの共演によるF.シューベルトの「鱒」などが披露されました。

京都駅前地域での産学連携事業

THE THOUSAND KYOTOとの連携

6月、京阪グループのホテル「THE THOUSAND KYOTO」館内のアートギャラリー新設を記念し、本学大学院生による合同展を開催しました。今後、卒業生による展示を計画しています。

左から：宇都宮三帆さん、川原萌さん、矢作玲乃亜さん

また、同ホテル及び丹波ワイン株式会社とのコラボレーションにより本学学生がラベルをデザインしたスパークリングワインが販売されました。

スパークリングワイン「京都丹波トラディショナル2011 長期熟成-SEN-」

左から：山崎結生さん（優秀賞）、山田美桜さん（最優秀賞）

沓掛キャンパス最後の2022年度 作品展

2月8日から12日まで、本学沓掛キャンパスと京都市京セラ美術館で、作品展を開催しました。

本学作品展は、美術学部と大学院美術研究科修士課程の全学年が作品を展示する最大のイベントで、期間中は1万人を超える方々にご来場いただきました。

本学での展示の様子

京都市京セラ美術館での展示の様子

本学に隣接する旧音楽高校でも展示が行われました

伝承が途絶えた講式を再興

日本伝統音楽研究センター 第61回公開講座

5月13日、魚山大原寺勝林院において、日本伝統音楽研究センターの公開講座を実施し、現在は伝承が途絶えている平安時代の真源作「順次往生講式（じゅんしおうじょうこうしき）」の式文全段を読唱し、管絃声歌全曲を再現演奏しました。

本堂での再現演奏の様子

指揮に下野竜也客員教授が登場

第171回 定期演奏会

7月10日、京都コンサートホールにおいて、第171回定期演奏会を開催しました。昨年度まで本学で教鞭をとり、今年度から客員教授に就任した下野竜也氏の指揮の下、若き学生たちによる渾身の全4曲をお届けしました。

下野竜也客員教授（指揮）

PROGRAM
F.メンデルスゾーン・バルトルディ／交響曲第5番 ニ短調〈宗教改革〉
A.ジョリヴェ／ファゴット、弦楽、ハープ、ピアノのための協奏曲
A.ペルト／カントゥス―ベンジャミン・ブリテンへの追悼歌
B.ブリテン／シンフォニア・ダ・レクイエム 作品20

ソリストに選出された松本拓也さん（ファゴット）

沓掛キャンパスの思い出

阪 哲朗　指揮専攻 教授

僕が京芸に入学したのは1986年、父もその昔講義を受けたという梅原猛学長の頃だ。音楽棟は綺麗で、土足厳禁だった。学内には草木が多く、英語の野澤健一郎先生がいつも綺麗に整えておられたのでいつしか「野澤農園」と呼ばれるようになった。ジャングルのような今の様子を先生がご覧になったらさぞかし驚かれるだろうと思いながら、約30年ぶりの母校に嬉々として通っている。
教室のあちこちにガタが来ていて複雑な想いにもなるが、それもそのはず、在学していたのは音楽棟ができてからまだ6～10年の時期で、卒業してからの方が遙かに長い年月が経っている。自分も音楽棟も歳を取るわけだ。
ところで、新入生が必ず騙される?という伝統は今も続いているのだろうか。曰く、体育館の地下にはプールがあって秘密の入口がどこそこにある。曰く、某所には夜中にお化けが出る。学食で「本当ですかぁ」と先輩の話す大法螺話に湧き、勇気ある後輩は「一緒に見に行きましょうよ」などと言っていたものだ。

喜歌劇『こうもり』

4回生の時にそれまでの3年間苦楽を共にしてきたGMG(※)のスタッフ仲間と、J.シュトラウスの喜歌劇『こうもり』に挑戦することにした。
2幕の舞踏会シーンでは学長、音楽・美術の両学部長、学食のチーフをゲストとして舞台上にお招きし、声楽の教授お二人にはソロとデュエットを披露していただこうという企みだったが、ワルツを踊る男性がいないのが最大の問題だった。そこで、だれが発案したのか、美術学部の男子学生10人を助っ人に入れるという妙案が飛び出した。目に見えるモノを創るのが専門の彼らにスタッフとしてではなく、舞台の上で歌って踊って弾けてもらおうというアイディアは京芸ならではの素晴らしさだ。集まった10人が、春先から昼休み返上の猛特訓を経て、1人の脱落者も出すことなく11月の本番を無事に迎えたのは立派だった。
卒業後10年ほど経った頃、当時住んでいたベルリンに屋台のラーメン屋がやって来るというので行ってみた。そこでアルバイトとして働いていた1人が「阪さんですよね?『こうもり』に出演した美術学部の～」と自己紹介を始め、驚く周りに「俺、オペラ歌ってワルツ踊ってたんやぞ～!」と声高に自慢し始めた。これにはもう目を細めるしかなく、彼の思い出が一生続くと思うととても嬉しかった。また自分にとってもGMGへの参加が、後の歌劇場でのキャリアにつながっている幸せを感じずにはいられなかった。

講堂

講堂は僕にとっての聖地だ。オケの演奏会、ミュージカルやオペラ、オペレッタなどを経験させてもらった場所だ。ここでの演奏体験がなければ、特に舞台作品の指揮者を目指すことはなかったと断言できる。僕はすべてを講堂で学んだ。
練習後、調整室横からだれもいない客席を一人眺めるのが大好きだった。本番前の客席の騒めきを想像するだけでワクワクしていた。
芸大祭前には毎日夜遅くまで居残っていたので、寒い沓掛の11月ではあったが、ここに寝泊まりできれば何と幸せだろうかと思ったものだ。

さて卒業後は、幸せなことに節目節目の演奏会に何度もゲスト指揮者として呼んでいただき、後輩達と一緒に演奏することができた。大学創立120周年にプラハで公演を行ったのもついこの間のできごとのようだ。
専任の教員として赴任して数ヶ月が経った。自分がかつて学んだ沓掛キャンパスの最終年を見届けることができ、移転後の新キャンパスも知ることのできる幸せな巡り合わせに感謝したい。自分の演奏活動だけだったこれまでとは違い、母校で後進を教えるという大仕事に邁進したいと思う。

(※) Geidai Musical Groupの略。京都芸大の文化系クラブの1つで、芸大祭でミュージカル公演を行っている。

Profile ｜ 阪 哲朗（ばん・てつろう）
京都市出身。京都市立芸術大学作曲専修卒業。ウィーン国立音楽大学指揮科で指揮を学ぶ。これまでに、ビール市立歌劇場専属指揮者、ブランデンブルグ歌劇場専属第一指揮者、ベルリン・コーミッシェ・オーパー専属指揮者、アイゼナハ歌劇場音楽総監督、山形交響楽団首席客演指揮者、レーゲンスブルク歌劇場音楽総監督を歴任。現在、山形交響楽団常任指揮者、びわ湖ホール芸術監督。

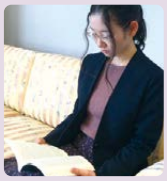
新任教員のご紹介　2023年度、9名の教員が着任しました。

翟 建群 講師
日本画専攻

唐仁原 希 講師
油画専攻

谷本 天志 特任教授
油画専攻

谷川 嘉浩 講師
デザインB専攻



村上 裕美 講師
共通教育

阪 哲朗 教授
指揮専攻

髙木 竜馬 講師
ピアノ専攻

戸上 眞里 准教授
弦楽専攻

正田 悠 講師
音楽学専攻

移転整備募金

本学では、新キャンパスにおける教育研究をさらに充実させるため、移転整備募金へのご協力をお願いしており、これまでに多くのご支援をいただいております。

実績　2023年6月末日現在

寄付件数｜個人 883件　法人 104件
寄付金額｜約11億1000万円

引き続き2024年3月末まで受け付けておりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

移転整備募金
https://www.kcua.ac.jp/contribution/itenseibibokin/

表紙の写真

京都駅のカウントダウンボードの「あの人」

移転まであと100日となった2023年6月23日、JR京都駅に設置中の、移転までの日数を示すカウントダウンボードのデザインが一新されたのをご存知でしょうか？ カウントダウンボードの側面には、在学生の高橋果歩さん（美術研究科修士課程）と松本拓也さん（音楽学部）にご登場いただきました。高橋さんは花や植物を柔らかな色彩で描く大学院2回生。松本さんはファゴットを学ぶ4回生で、2023年7月開催の本学第171回定期演奏会でソリストを務めました。これからも本学の学生の活躍にご注目ください！

新キャンパス情報

新キャンパスの建設工事がいよいよ最終盤に差し掛かり、学内では本年10月の移転に向けた準備が進んでいます。2013年3月に本学が京都市に要望書を提出してから、実に10年もの歳月が経過しました。この間、さまざまにご尽力いただいた学内外の皆様方に御礼申し上げます。
本事業において本学には、単にキャンパスを移転させることにとどまらず、文化芸術都市・京都の玄関口である京都駅東部エリアにおける活力創出の中心的な役割を果たすことが期待されています。この期待に応えるべく、クリエイティブで国際的な文化芸術の交流拠点、すなわち「テラスのような大学」を目指し、移転直後から各種事業を実施するなど、新キャンパスでの活動を展開してまいります。新たなミライに向かって一歩踏み出す京都市立芸術大学にご期待ください。

新キャンパスでの記念事業

新キャンパスを中心に、さまざまな記念事業を企画しています。
詳しくは本学ウェブサイトをご覧ください。

演奏会　**〈堀場信吉記念ホール こけら落とし公演〉オーケストラ協演の夕べ**
日時｜2023年11月2日（木）19時開演予定
会場｜京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール

展覧会　**〈移転開館記念展〉久門剛史展**
会期｜2023年11月25日（土）－2024年2月12日（月・休）
会場｜京都市立芸術大学ギャラリー＠KCUA

展覧会　**京都市立芸術大学 2023年度 作品展**
会期｜2024年2月7日（水）－2月11日（日・祝）
会場｜京都市立芸術大学

オペラ公演　**第173回定期演奏会 大学院オペラティックコンサート**
会期｜2024年2月18日（日）開演時間未定
会場｜京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール

演奏会　**京都市立芸術大学 第53回 卒業演奏会**
会期｜2024年3月20日（水・祝）開演時間未定
会場｜京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール

展覧会　**〈芸術資料館 収蔵品展〉京都芸大「はじめて」物語**
会期｜2024年4月5日（金）－6月2日（日）
会場｜京都市立芸術大学 芸術資料館

能楽公演　**祝賀能 ーそのかたちを継承するー 翁、風流、開口、高砂**
日時｜2024年5月3日（金・祝）開演時間未定
会場｜京都市立芸術大学 堀場信吉記念ホール

kcua.ac.jp

京都市立芸術大学 広報誌「京芸通信」第31号 /2023年7月発行
企画・編集：京都市立芸術大学 連携推進課　撮影協力：駒 優梨香
所在地（2023年9月末日まで）：京都市西京区大枝沓掛町13-6
（2023年10月1日から）：京都市下京区下之町57-1
お問合せ（メール）：kyogei_pr@kcua.ac.jp